



定價一又

中外新聞 第十八號



西垣文庫
文庫10
7324
5



文庫10
7324
5

西垣文庫

中外新聞第十八號

慶應四年四月廿七日

横濱在留外國人の書狀抄譯

新瀉より報告有り北方諸藩の様子を聊々聞く事を得たり
即ち左の如し

北方諸侯も勅使の通行を妨げずと雖も南方の兵會津領
地よ入る事を許さず

溝口侯の兵五百人許京都へ發向す北兵も溝口侯へ逼りて
何故に南黨に屬するや若し北黨の先鋒よ加えらざるに於
ても城地を奪ひ取る可き由手強き相合ありしを溝口よ

り莫大の償金を出して和を乞ひとる由
北部の兵を越後の高田より到り是より信州より趣く可き由の
知らせ有り
吾等の思ふ所にては北方諸侯の勢益強大とかり遂に進て
京洛の地を争ふに至るべし

○東山道總督府より諸藩へ此達の寫

大政は一新の折柄未と 此政事向不行届を幸として無頼
の悪徒共愚民を欺き徒黨を結び恐多くも 官軍の内命或
を薩長より付られは杯と偽り唱へ無辜の富家へ押入り

強談難問を掛加之放火いといひ日く亂妨相募り生民全く
塗炭に陥りは段總督府おいても深くは憂慮を爲遊一日も
難捨置依之信州一國の賊徒鎮撫向當國列藩へは 仰付は
聞各藩へ合夫々持場を定め人數差出し置賊徒の亂妨を防
ぎ悪徒を召捕諸藩脱走人或は無宿者に至ても速に其藩に
於て死刑に處す可くは尤百姓よりと雖も徒黨に頭立は向
を平日の行状正邪を糾し夫々可致所置は元來無頼の悪徒
共徒黨を結ひ蜂起いといひ倭ははへを大義條理を以て鎮
定しは倭一朝一夕に不可行者は間 勅命の旨に達し兵
威を以て鎮撫可仕は但一年貢諸運上總て御收納向の倭を

此の確定の上は沙汰可有之間を此迄の所只管鎮撫民
政の心を用ひ萬民其業を安しむ精よく可致盡力旨更に
仰せされし間此段相達し也

辰四月

東山道總督府執事

○江戸市中改革仕方案

神田孝平 述

江戸を元來日本國中諸大名轄湊の地ありし所時勢一變し
今を復昔の如くからず且遠くらさる内より外國人も居留す

る事と成る可ければ後年の盛衰を姑く差置き眼前此儘と
てと立ち行き難き姿あり然れど先づ急に改革の良法を行
はさる可らず扱其改革の趣意を第一江戸中の智慧と力と
を集むるを肝要とすこれを集むるの法を總代會議の法を
設くるに在り今試し其法を論せし先江戸市中を廿組程に
分ち各組の中より地面持をりり相集り入札の法にて誠實
才能ある者二人を撰み是を組中の總代として奉行所より差
出すべし左すれば奉行所より江戸中組より出る總代人
凡そ四五十人も集まるべければ一大席を設けて集會せし
む可し是れ即ち總代會議所なり次は會議の法すべて奉行

の存意よても總代人の中より出しし事よても又も市中の者より立る事よても一應必ず奉行の手より總代會議よ渡して其評議よ懸け一統承知の趣評決連印の上よ非ざれを之を市中に施し行ふへうらす且何事よよらず會議よて可然と評決せを先例無き事よても之を行ふへう又然るへうらずと評決せをことへ舊來の仕來りと雖も直よ之を廢止すべし是れ其要領あり猶總体の心得方を言へし抑此總代を江戸中より擇み出されし賢人おれを即ち江戸中の智恵をし不り出しし者あるが故よ銘こよも篤と其理合を合點し假初よも一己の私心を挾ます一圖よ江戸中

一統の爲を思ひ假令を同船にて風波の難よ逢ひし時の如く相和し相助け何事をも取纏め成就せしむるを主とすべし且夫れ江戸中廣しと雖も細うよ吟味すれを誰どの地よ非るも無し又地面の主よる者己れが地面を大切と思をざるも無し今地面を大切と思ふ心を以て總代を撰み出し其總代打寄りて評議決着せを自然よ江戸中を大切と思ふ心を生ずるよ至るべし是れ實よ總代會議の妙處よして殆筆舌よも盡し難き真味あり方今交易商會蒸氣用法製鐵局紙幣法其他總して江戸市中を富ますへき良法極めて多しと雖も先つ右江戸中を大切と思ふ心を一纏めふりて後

一非れと手を付け難し故に我先つ會議法の大略を述べて
以て其端を發すと云

追加本文總代は撰まる、者を人材を第一とし地面を
持とぬ者よても苦しうるまど勤役を九四五年を限と
して交代すべし且勤役中を相應の格式と俸金とを與
ふ可し尤俸金も總地主中より之を出すべし猶論すべ
き事多く有りし雖も具録は暇あらず市中有志の諸賢
尚其詳を問ふんと欲せを板元よはよりて我家以來り
訪ふべし

○
佛蘭西在留の友人より書翰を得とり彼地見聞の事を記し
日公子民部大輔殿の仕旅館の圖をも寄贈す此冊紙數既に
満とれを近日刻して同好は頒とんとす

○
西洋醫家必用の藥品ヂギタリスヒヨスサルヒヤカミルレ
マヨラン亞麻アルセムメリスの類追々傳來し當今に至り
ても外船を待とずして其用乏しうらず其他花菜蔬等も
次第に船來多し吾去冬佛蘭西より歸帆の時も亦種々草木
の種子根塊を携へ來る其内はサワランコルシクムアルタ

アゼーアユインイリスフロレンタナラヘンデルカルヒイ
等あり此等次第よ繁殖せを後來一個の國益とも成るべし
又菓も方今を許多の菓を結ぶよ至れり此物世間よ流布
するよ至らる亦一種の物産を増補すと謂べし

菓菓元和産あり西洋名スプル俗稱オホリンゴと云ふ林
檜の屬よして實大よ且甜美あり

砂糖を只甘蔗より製するのみならず西洋よても蒸藪の根
よりも採り又楓の樹よても之を採るいそゆる棒砂糖と云
者も皆蒸藪より製しとる者あり

田中芳男 記